

弱さをまとった大祭司へブル 5:1-102025. 4. 6、庄和 NO. 747
春日部福音自由教会 山田豊

私たちの主イエスは、この世界の王であり、神の言葉を語る預言者であり、そして私たちと神との間に立つ大祭司であるキリストです。王、預言者、大祭司という三つの職務をまっとうするお方でもあるのです。大祭司というのは、少しわかりにくいところですが、へブル人への手紙を通して、しっかり教えられたいと思います。

本日の個所は、旧約時代のことを引いて、イエス・キリストが大祭司であることを明確に示しているところです

大祭司は民の中から選ばれるのですが、それは神による任命でした。4節にアロンについて記されています。彼は口下手なモーセに代わって預言者とされただけでなく(出エ 7:1)、祭司としても召されました(出エ 28:1)。同じように、イエスも神によって召され、大祭司とされました。5節に引用されているのは、詩篇 2:7 ですが、私には主イエスがバプテスマのヨハネから洗礼を受けたときの光景が思い浮かびます。そして、見よ、天から声があり、こう告げた。「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ。」(マタイ 3:17)

このへブル書が語る特徴的なことは、大祭司は神によって任命されたとはいえ人としての弱さを持っていたように、イエス・キリストも人としての弱さを持っておられた、ということです(2節)。新改訳聖書第3版では、「自分自身も弱さを身にまとっているので、無知な迷っている人々を思いやることができるのです。」となっています。これは、多くの日本語訳聖書の訳ですが、新改訳 2017 では「優しく接することができます」となっています。NKJV では「憐れむことができる」と訳されており、compassion(あわれみ＝共に苦しむ)という言葉が使われています。4:5にも「私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯しませんでしたが、すべての点において、私たちと同じように試みにあわれたのです。」とあります。人としてのイエスが、私たちと同じ弱さを持ち、苦しみを経験されたので、私たちをよくわかってくださるのです。

大祭司の務めは、神殿の中の至聖所に入り、祭壇の上で犠牲の動物を屠り、それを神に捧げることでした。人間の罪の宥めのために、血が流されたのです。へブル書は、イエスご自身が宥めの供え物としてただ一度だけ血を流し、すべての人を救い、神に至る道を開いたと告げます。それこそが、十字架でなされた神のわざでした。復活祭まで、改めてこの主イエスが歩まれた十字架の道行きを、心に留めてまいりましょう。

引用聖句

出エジプト 28:1 あなたは、イスラエルの子らの中から、あなたの兄弟アロンと、彼とともにいる彼の息子たちのナダブとアビフ、エルアザルとイタマルをあなたの近くに
来させ、祭司としてわたしに仕えさせよ。

出エジプト 7:1 【主】はモーセに言われた。「見よ、わたしはあなたをファラオにつ
て神とする。あなたの兄アロンがあなたの預言者となる。

詩篇 2:7 「私は【主】の定めについて語ろう。主は私に言われた。『あなたはわたし
の子。わたしが今日あなたを生んだ。

マタイ 3:17 そして、見よ、天から声があり、こう告げた。「これはわたしの愛する子。
わたしはこれを喜ぶ。」

創世記 14:17 アブラムが、ケドルラオメルと彼に味方する王たちを打ち破って戻
って来たとき、ソドムの王は、シャベの谷すなわち王の谷まで、彼を迎えに出て来
た。

ヨハネ 14:16 そしてわたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与えく
ださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにしてくださいます。

ヘブル 4:15 私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。
罪は犯しませんでしたが、すべての点において、私たちと同じように試みにあわれ
たのです。

ヘブル 7:27 イエスは、ほかの大祭司たちのように、まず自分の罪のために、次に
民の罪のために、毎日いけにえを献げる必要はありません。イエスは自分自身を
献げ、ただ一度でそのことを成し遂げられたからです。

ヘブル 9:25 それも、年ごとに自分の
血でない血を携えて聖所に入る大
祭司とは違い、キリストはご自分を
何度も献げるようなことはなさいま
せん。

ヘブル 10:19 こういうわけで、兄弟
たち。私たちはイエスの血によって
大胆に聖所に入ることができます。



大祭司の装束(ウキペディア)